

「福井市総合計画審議会」 第2回全体会議

■開催日時：平成22年11月8日（月） 10:00～12:00

■開催場所：国際交流会館 第1.2会議室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

司 会

みなさまおはようございます。皆様におかれましてはお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。まだ若干お見えになってない方もいらっしゃるようですが定刻となりましたので、ただいまから福井市総合計画審議会第2回の全体大会を開催させていただきます。なお、お手持ちの携帯電話につきましては電源をお切りいただくか、マナーモードにさせていただきますようご協力をお願いします。

2. 市民憲章唱和

司 会

それではまず始めに市民憲章の唱和をいたしたいと思っておりますので、おそれいりますが皆様ご起立をお願いいたします。市民憲章は会議次第の裏面に印刷してございますのでよろしくをお願いいたします。私が前文を朗読いたしますので引き続きご唱和をお願いいたします。なお、5つの項目それぞれに設けてございます実践目標もあわせて唱和をしたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。

————— 市民憲章唱和 —————

ありがとうございました。ご着席ください。

3. あいさつ

司 会

それではここで総務部長の宮木よりご挨拶を申し上げます。

宮木総務部長

おはようございます。

全体会議を始めます前に一語ご挨拶をさせていただきます。本日は何かとお忙しい中、第2回の福井市総合計画審議会の全体会議にご出席をたまわりまして厚く御礼申し上げます。さて、委員の皆様には6月に委嘱を申し上げ第1回の全体会議の後、本日までの5ヶ月間に渡りそれぞれの専門部会または調整会議において熱心にご審議をいただき厚く御礼を申し上げます。本日は、答申案の取りまとめという重要な審議になります。今まで

まとめました計画案は4つの基本目標16の政策で構成されております。福井市の都市像は「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい」というものでございます。誰もが行きたい、住みたい、帰りたい、と感じられる街づくりを進めていき、福井を離れた人が福井市という家に皆帰りたい、帰ると「ほっ」とするという意味が込められているという事でございます。委員の皆様方にはこの答申案を、これまでの審議内容や福井市の現況などを参考にいただき審議のほどよろしくお願ひいたします。また、本日の会議の後、この答申案につきましては市民の意見を聞く予定でございます。年が明けた1月の調整会議を経まして第3回の全体会議において答申案を決定していただく予定となっている次第でございます。道は半ばを過ぎましたが、あとしばらくご尽力をたまわりますことを切にお願ひ申し上げ挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

4. 議題

【(1)「第六次福井市総合計画 答申案」について】

司 会

それでは以後の議事につきましては福田会長さんのほうでお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

福田会長

はい、皆様おはようございます。

全員

おはようございます。

福田会長

ただ今部長さんからお言葉がございましたようにですね、これはあの、第2回の全体会議ということで、極めて重要な会議でございます。ちょっとあの、お互いに離れて、発言しにくいかもしれませんが、ぜひ、あの、活発な意見交換をお願いしたいというふうに思います。まず10ページ11ページを中心に今日は議論をいただくことになろうかと思いますが、それを先だちまして、まず事務局のほうから説明を願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

どうぞ座ってやってください。

事務局（吉村室長）

あ、はい。なら座って説明させていただきます。今ほど部長のほうからも申し上げましたけれども、議員の皆様には、まあ、4つの部会に別けてご審議をいただいて、そのあとまあ調整会議なども含めまして、まあ、計画の体系全体ですとか、あるいは将来都市像について延べ20数回にわたってご議論を、ご審議をいただきまして、まあ熱心なご議論をいただきました。ちょっと振り返ってみますと、まあ、部会の初めのほうでは、まあ、今回の答申案のとは各論のところでございますけれども計画の体系についていろいろとご審議をいただきました。その後、部会の後半では都市像についてそれぞれの部会から案をお出しいただきまして、第2回目の調整会議において、ただいま申し上げました「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい」ということで将来像をお

決めいただきましてこれを基に今までの議論、そういったものを踏まえまして、事務局のほうで答申案を調整させていただきまして、それを更にまた調整会議のほうにかけまして、そこでいただいたご意見を基に修正したもの、これを現時点での答申案ということで事前に委員の皆様には送らせていただいているところでございます。まあ、これまで非常に熱心なご議論をいただきまして、中にはやはり意見のなかで相反するご意見をいただいたりとか、まあ、そういったこともございますので、まあ、極力委員の皆様のご意見を取り入れるような形ではしていますけれども、全てが全てというわけにもいかない部分もございます。ただ全体として、まあ、あの総論的と言いますか、皆様のご意見を踏まえた形でこれまで調整してきているつもりでございます。その結果、最初諮問したものとは相当形としては、大きく変わってきていると思えますけれども、まとまりも相当出てきて段々仕上がってきたのではないかなというふうに思っておりますけれども、本日またご意見をいただきまして、それを基に修正の後、市民の皆様にご意見をいただく、あるいは今後市議会のほうにも、この答申案の説明をしていくということで、そちらの方からのご意見もあるかもしれませんけれども、そういったものを踏まえながら、来年また、調整会議、全体会議とお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、送らせていただきました、「第六次福井市総合計画 答申(案)」をご覧いただきたいと思っております。

表紙をめくりますと目次という事で、大きく序論・本論・各論の3つの構成になっております。で、序論のところの表紙をめくっていただきますと、1ページ目が総合計画策定の主旨と役割、それから2ページからは福井市を取巻く社会状況という事で、将来的な人口減少ですとか、そういった環境の事が書いてございます。5ページからは福井市の特色、現状という事で、5ページのところでは人口で更に自然動態とか社会動態とかいうふうな事も記載しております。自然動態のところを見ていただきますと、平成21年度からは、ちょっとマイナスに転じているような部分がございます。出生率そのものは福井市、福井県、全国的にはそれなりに高いほうでありまして、21年も出生率は増えていますけれども、産める年齢ですね、産める年齢とされている15歳から49歳の女性の方の人口そのものが減っているということで、多少出生率が上がっても出生数が今後段々減少に転じていくのではないかと、いうふうに予測されております。

それから社会動態の方はマイナス幅が段々拡大してきておりますけれども、数の要因として1番多いのは県外に出た学生が、なかなか4分の1位しかUターンしてきてないという部分がございます。数の面ではこういった部分が多い訳ですけれども、今後、この計画は5年間の計画ですけれども4年後の2014年には金沢でも新幹線の開業とか、そういった要因から更に事業所とかそういったものが引っ張られる事によって従業員が引っ張られるというような事も想定されます。そういった危機感をこの人口のところでは持っているようなところでございます。

それから6ページでは、居住形態で、3世代同居が多い状況、それから、7ページ8ページでは市民意識調査という事で福井市に対して、どういったところに力を入れてほしいか、そういった事についての市民意識等そういったものをここでは載せております。で、序論のところでは総合計画の前提となるような事項を載せていると、まあそういったところでございます。

それから9ページからは、本論のほうに入っていきますけれども、1番目に計画期間2番目には構成ということで、総合計画の将来都市像、基本目標、政策、施策、ここまでが総合計画の構成でございまして、それを実行に移すための実施計画がその下にありまして、これは、総合計画ができた後に、具体的にそれを実現するための計画をつくという事でご

ざいます。それから10ページ目、まあ3番目に基本的な考え方という事で、前提条件などもふまえながら総合計画の基本的な考え方を期待しているものでございます。10ページの上段のところでは人口減少社会というものはある程度避けられない部分はございますけれども、ただ、福井市は昼間人口は今国勢調査やっているとありますが、17年の国勢調査では人口よりも3万人位、昼間は人口が増えると、まあ、これは通勤通学でそれぐらい求心力があるということですし、それに買い物ですとか、あるいは病院に行く人などいろいろ含めますと更に、昼間、福井市に来る人は多いということで、あの、そういう県都としての求心力ですね、そういったものを活かしながら交流人口ですとかあるいは、産業・商業そういったものも進行していく必要がある、こういったことを期待してございます。それから2番目のところは、市民意識調査でも、市民の皆様は、安全安心、そういったものを非常に望んでおられるということで、まあ、そういった部分のことが中心となります。まあ、人口減少といえますか、今まで社会を支えることをされておりました15歳から65歳いわゆる生産年齢人口これも、段々縮小していくような形になります。そういった中では、これまでは高齢者扱いであった65歳以上の方々そういった方々も含めて、やはり支えあいの社会を作っていく必要があると、そういった事もこういったところには入ってくると思います。そこで、1番下のところ3行ですけれども、「20年30年後の社会を支える人が減少する将来を見据えながら誰もが住んでみたいと思えるまちを目指し、今後5年間の総合計画を策定します。」というところが基本的な考え方になっています。

福田会長

これを読んでもらったほうが良いんじゃないですか。

事務局（吉村室長）

あっ、そうですか。あの～。

福田会長

3と4はね。

事務局（吉村室長）

3と4ですか。はい。

福田会長

これをちょっと読んでもらったほうが良いんじゃないでしょうか。

事務局（吉村室長）

はい。わかりました。ではちょっと朗読をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

「3 基本的考え方」、福井市は、県の政治・経済・文化の中心都市として発展してきました。しかし、人口構成等からの推計では将来的な人口減少が想定され、更に老年人口割合の増加、生産年齢人口割合の減少による社会構造の変化など、発展を続けるための課題は多くなっています。本誌は嶺北一円の市・町からの通勤・通学者により昼間人口が夜間人口を大きく上回っており、買い物や通院などを含めると更に多くの方が本市に集まっています。こうした求心力を活かし、県外からの観光客等も含めた交流人口の増加や産業の育成などによる活性化を図ることが重要です。そのためには、道路や公共交通などの社会基盤整備に加え、産業・観光・人づくりなどの様々な分野で県や周辺市町と連携しながら、県の中心としてのまちづくりを進めていく必要があります。

長期にわたる景気低迷や本格的な高齢化社会の到来などの社会経済状況の中、人々は将

来に大きな不安を感じています。本市においても、市民の労働環境を整備する施策や高齢化社会に対応する施策を実施し、誰もが安全に安心して暮らすことができる。人にやさしいまちをつくることが求められています。

そのためには、社会状況に即した施策の実施に加え、市民一人ひとりがお互いに支えあい、人とのつながりや心と心のふれあいを大切にしながら、将来にわたって、生活への不安を取り除いていくまちづくりを進めていく必要があります。

20～30年後の、社会を支える人が減少する将来を見据えながら、誰もが住んでみたいと思えるまちを目指し、今後5年間の総合計画を策定します。

11ページの「4の将来都市像」のほうに移ります。まちはそこに住んでいる人だけでなく、学び、働き、憩い、訪れる人々にとっても安らぎと潤いを感じ、健康で文化的な生活を送ることができる場所であることが大切です。

人口減少社会や急激な社会状況の変化などの将来を見据え、誰もが「行きたい、住みたい、帰りたい」と感じられるまちづくりを進めていかなければなりません。

そこで、本計画での福井市の目指すべき姿を以下のように示します。

『自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい』

福井市に豊かに残る水や食をはじめとした物心両面で様々な恵みを与えてくれる自然、人が集い、交流し、学び、働くことで生まれる活気、お互いを尊重し、福井の街、歴史、文化への誇りにみちたふくいを目指します。

人々がともに責任を担い、自由に交流し、個性を発揮して、生き生きと人生を送る、人が輝くまちを目指します。

“自然・活気・誇りにみちた”“人が輝く”まちづくりを進めていくことで福井市に住んでいる人が、このままずっと住み続けたいと思えるまちを、また市外の人が、福井市に来てみたい、住んでみたいと思えるまちを、進学・就職で福井市を離れた人が帰ってきたいと思えるまちを目指します。

そのような気持ちにさせるまちを、福井市という家^{うち}にみんなが帰りたい、帰ると「ほっ」とするという意味をこめて“かえりたくなるまち”という言葉で表しました。

12ページ13ページは、5番目基本目標でございます。これはこれまで各部会で、それぞれ4つの部会で議論いただいた部分でございます。14ページ15ページですが、左側に将来都市像、それから計画体系として基本目標・政策・施策、これはこれまでご議論いただいたところであり、右端にそれを実現するための実施計画を作るという事で実施計画という部分載せております。

17ページ以降につきましては、それぞれの部会でご議論いただきました基本目標以下の政策それから現状・課題、政策の方向性そして体系の中の施策という事で、以下同じような構成になってございます。

以上簡単ではございますけれども、答申案の説明をさせていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

福田会長

はい。どうもありがとうございました。

今、室長のほうから読んでいただきました。特に3番の基本的考え方と4番の将来都市像、ここを中心に今日はご議論をいただきたいと、そういうふうに思います。

その前にですね、皆様のお机の上に吉川委員のほうからですね、ご意見いただいております。これをちょっと、さっとお読みいただいでですね、これを参考にしてご議論をいた

だきたいというふうに思います。

それでは早速ですが、何かあの、両方どちらでも結構です、ご議論いただく事ございましたら、どうぞ挙手のうえお名前をおっしゃっていただいて、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

田村委員

お願いします。田村洋子でございます。

今読んでいただいたのを、ずっとそのまま頭に入りましたんですが、11ページの下から2番目の段のところの、「このままずっと住み続けたいと思えるまちを」というところなんです、福井市に住んでいる人は「ずっと住み続けたいと思うまち」でないといけないんじゃないかなと、それから、その次ですが、「福井市に来てみたい、住んでみたい」というのは市外の人が福井市を見る場合には、どっかに書いてありました、「行ってみたい、行きたい」とか「訪れたい」とかって言うんじゃないかなと思いました。それからその次の行ですが、「離れた人が帰ってきたい」とって言うんじゃないかって、「離れた人が戻りたいとか、帰りたいとかと思える」、これは福井市を離れた人が思えるまちをと言うんじゃないかなってちょっと思いましたんですが。これが私の意見なんですけど、お願いします。

福田会長

はい、そういうご意見が出ましたが、今のご意見についていかがでしょうか。

室長何かないですか。

事務局（吉村室長）

確かに、見る方向で、福井市側からの見方をしていたものですから、ちょっとこういう表現になっている部分ありますけれど、確かに市外の人からの目線で書いたほうがいいのかなあと今ご意見を聞いて思いました。

福田会長

はい。最初はどうですか。ちょっと細かい話になりますけども、「思える」か「思う」とかということですね。これもちょっとお考えいただけますかね。今ここでどっちかかって採決取って多いほうにしましょうというわけには、ちょっといかんでしょから。ちょっとこれはどちらが良いのか。確かにこの2段目のところの来てみたい、まあ来てみたいでも住んでみたいでも、これはまあ通じないでもないですけどもね。福井市のほうから視点を見れば、来てみたい、向こうからこっちに来ることだから、これは通じないという事はないんだろうけども、市外の方の人の、今室長がおっしゃったみたいに視点に立てばですね、行ってみたいというほうが、よりダイナミックじゃないかなあっていう事かもしれませんね。

内田委員

はい。

福田会長

はい、どうぞ。

内田委員

今の10ページの下、内田と申します。ちょっと私国語得意ではないんですけども、

「思うまちを目指す」と「思えるまちを目指す」とではですね、多分思うは単純な思うで、思えるはですね、今住んでみたいと思っていないけれども、思うことができるっていうか、そういう意味合いが国語的にあるのかなっていう感じがしますので、そのへんでどちらがふさわしいか、私はここで意見持ち合わせていないんですけども、そのへんの違いかなっていうふうに思います。

それから先程の吉川委員さんのペーパーからするとですね、この部分がちょっと弱いかなっていうふうに思います。20年30年後のですね、議論することを提案します。という事なんで、ここで、この場で議論するのは難しいかもしれませんが、この10ページ下まだ枠が在りますので20から30年後の、社会を支える人が減少する将来を見据えながら、この形容詞っていうか、この言葉を、もうちょっと20年から30年後の将来像を加えたらどうかなっていうふうに提案いたします。以上です。

福田会長

はい、ありがとうございました。

吉川さんの先程の皆さんのお席の上に配布させていただいたのにもありますようにですね、もうちょっとロングスパンの構想と、都市像という事も考えたほうが良いんじゃないかと、ぜひそういう議論をやってほしいというご意見だろうと思うんで、今、内田さんのほうからも、そういうものを捉えて、1番下のパラグラフの20年から30年後というところを、もうちょっと具体的なものとしてですね、はっきりと書いたらどうやというご意見だと思いますね。

それから最後にあたっての思えるか、思うかはですね、これ解釈の違いがあって思える方がもうちょっと膨らませたような感情を入れているのではないかというご意見でしたが、皆様いかがでしょうか。特にどうでしょうか。20年後、あのね、室長に質問しますが、都市計画のマスタープランっていうのは、これはあるんですか。

事務局（吉村室長）

都市計画のマスタープランは昨年改訂をしたところでございまして、20年ぐらいのスパンでの都市計画マスタープラン、どちらかというところ、もともと土地利用とかそういったところの視点が主でしたけれども、ある程度ソフト面も含めながら20年間程度のスパンでの計画、都市計画のマスタープランは昨年出来ているところでございます。その中でも人口減少とかそういったことも織り込んでおりますので、そういったところとの整合性は今回5年計画も図っているところでございます。

福田会長

吉川さんのところによればですね、都市計画マスタープランが下位計画と言っておられますが、これ逆じゃないですか。やっぱりマスタープランがね、まず先行してあって、それに基づいたものがですね都市計画5年間のスパンで考えるということではないのですか。どういうふうに考えればいいですか。

事務局（吉村室長）

市の中での計画の位置付けから言うと総合計画の方が上にあって、部分計画と言いますか、そういう土地利用ですとか、交通政策の事とか地域づくりとか、そういったことで、部分的な計画という事で位置付けはされております。ただ、この土地利用とかは非常に長い目ですので、計画的には、その先まで行ってるような計画の位置付けという事になります。

福田会長

わかりました。一応そういう意味で総合計画のほうは上位のプランであって、その中のある一部分、土地計画、都市計画というようなものを取り上げたものが、マスタープランであると。全体の都市計画あるいは土地計画というようなものを収めたのが都市計画マスタープランであって、それは対象がですね、かなりロングスパンに当たるんで、だいたい20年後を見越しているという事で、ここに吉川さんが書いてらっしゃる通りであるわけですね。ただ、そういうふうに長さの面でいくと5年間と20年間ちょうど逆転するようなんで、それは先が見えにくいというふうな言い方をおっしゃっているんだと思いますね。それと今内田さんの方からもご意見が出ましたこの事についてはどうですか。もうちょっと1番最後のパラグラフをですね、20年後30年後の福井市の将来像ということをもっとここにいたらどうかと、いうご意見に関してはいかがですか。

事務局（吉村室長）

20年後30年後の将来像をそのまま入れられるかどうかはちょっと分からない部分もありますけれども、このあたりもうちょっと膨らませたような形での表現にはさせていただきますと思います。

福田会長

まっ、そういう貴重な意見が出されましたが、どうでしょうか。他の方々ご意見たまわりたいと思いますが。遠慮なくどうぞおっしゃってください。何でも結構です。

大森委員

すみません。

福田会長

はい、どうぞ。

大森委員

大森と申します。お願いいたします。

先程文言のほうで、「思える」と「思う」とかあったんですけども、10ページの先程出ました20年後30年後のところの中を見ますと、「誰もが住んでみたいと思えるまちを目指す」と書いてあるんですが、11ページの将来都市像のほうは、「住みたい」となっていますし、そこらへんで気持ちの思いの強さっていうのが現れてくるんじゃないかなあって思うんです。と言いますのは、誰もが住みたいって思えるまちなのか、住んでみたいと思えるまちなのかでは、ちょっとなんかニュアンスと言うんですか、ちょっと思いと言うのが変わってくるような気がしまして、それぞれ思いがあってこれ書かれているのかもしれないんですけど、「住みたいと思えるまち」っていうのも良いんじゃないかなあって思いました。

福田会長

どこに入れるんですか。

大森委員

えっ。

福田会長

10ページ。

大森委員

あつ、10ページのとこの「住んでみたい」と書いてあるんですけども、11ページのほうは「住みたいと感じられるまちづくり」というふうにありますし、「住んでみたい」と「住みたい」とこれを言葉のニュアンスですか、ちょっとなんか違うのかなあと、「住んでみたい」の方が少し弱いのかなあと思ったりもしました。意見として。

福田会長

それで10ページのほうは住みたいのほうにした方が良いつて事おっしゃる。

大森委員

というふうに私は思ったんですけども。

福田会長

住んでみたいは、なんか気まぐれな感じになるんですか。

大森委員

ちょっと弱いかなあと。

福田会長

ちょっと弱い。ちょっと住んでみようかなあつてなもんで、弱いというわけですね。

大森委員

そのような感じもしたんですけども。

福田会長

なるほど。えーいかがでしょうか。かなり各文章の事まで入つて細かく話が細かくなりましたが、細かくつても大きくてもかまいません。どうぞご意見たまわりたいと思います。

吉田委員

はい。

福田会長

どうぞ。

吉田委員

このタイトルなんですけれども、私個人的には「かえりたくなるまち」というのは、非常に気に入らない表現に感じられます。なぜかという、帰りたくないんやと、帰れないんやと、いう人も中にはいると思うんですね。で、その中の条件的には例えば就職が無いとか、あるいは土地が高つてとても福井に住めないわとか、で、ベットタウンである坂井市やとか丸岡だとか、どうしてもそちらに流れてしまう。基本的にはそこらへんを改善、解決してあげるともつともつ福井にもそのまま住んでくれるというような事があるだろうし、就職なんかでもUターンIターンとの関係がありますけれども、そういった企業が非常に少ない、それをどういうふうな施策の中で活かしていくのか、将来ビジョンの中で活かしてそれを、帰らせるような要因を作っていくのかつていう事が、後からの具体的な中には出ているんだろうと思うんですけども、どうもちよつとこう、線が、つていうのか、むしろそんな表現よりかも、住みたくなるつていうありふれた言葉かもしれないけれども、そのほうが素直に市民として受け入れられるんじゃないかなあつていうふうな気がするんですけども。ちよつとそういうふうなことを感じまして、意見があるんやつた

らまたよろしく。

福田会長

ありがとうございます。はい。今のそういうご意見があります。しかしそれは調整会議で。

谷口委員

関連でいいですか。

福田会長

はい、どうぞ。

谷口委員

関連でやらしてもらいます。実はこれ1週間ぐらい前に読ましてもらったんですけども、1番始めにぱっと目についたのはこの「かえりたくなる」っていう事が、これはおかしいなっていう感じをもちました。今言われました吉田さんと同じですけども、実はこの「かえりたくなる」という事、そのもう1つ前を考えてみますと、福井から出て行くのが当たり前だというような捉え方を私はしました。出て行くのが当たり前だというんで、どれだけの人が出て行っているんだと勘定しますと、5年間平均して560人位という数字になるかと思えますけれども、それならばあえて「かえりたくなる」と言うような言葉を使うべきではないなという感じを持ちました。以上です。

福田会長

はい、そういうご意見ですが、いかがですか。

ちなみに調整会議とかそういう会議では、むしろこの「かえりたくなるまち」っていうのが良い表現であるという意見が非常に多かったんですけどね。いかがですか。

今お二人の意見はこの「かえりたくなるまち」っていうのが、どうも違和感があるというご意見だったように思うんですが、ここに書いてある説明を読めばですね、「かえりたくなるまち」っていう意味がまったく逆の意味であるというふうに解釈できると思うんですが。いかがですか、他の委員の方々。どうぞ、せっかくお忙しいところいらしていただいたんですから、どうぞご意見それぞれお持ちだと思いますが、ご遠慮なくどうぞ意見をお出してください。

高畑委員

はい。

福田会長

はい、どうぞ。

高畑委員

高畑です。この、自然とか、活気とか書いてある文句、これ少し長くないですか。もうちょっと短くなるような文面の方が良いかなあって思うんですけどね。何か、だらだらだと書いてあるような感じがしました。以上です。

福田会長

はい。他にいかがでしょう。いかがですか。各部長の方々特にいかがでしょうか。

杉田委員

私は杉田と言いますけれども、これ調整会議の時にはやはり「かえりたくなるまち」と

ていうのは、なかなか非常に「ほっ」とすると言うのか、そういう意味では良いんじゃないかなあという意見が多くて、確かに今先程の意見を聞きますと、出て行くのが前提であるというふうな言われ方もあるのかなあと思いましたが、やはりそういう福井が良くてかえりたくなるという、そういう気持ちがやっぱり自分にこう伝わってきて、私は「かえりたくなるまち」っていうのは悪くないなという気がしているんですけども。

福田会長

谷口さんおっしゃったのは、あれですよ。要するにかえりたくなるとかその言う前に出て行くって言うのがあるはずだから、そういう事を考えるとこの「かえりたくなるまち」っていうのは、おかしいんじゃないかという意見がありましたよね。

野坂さんいかがですか。

野坂委員

ちょっと私も出張と重なりまして、この「かえりたくなるまち」と決まった時の調整会議は出席をしておりますんでして、その後の第2回の会議が先々週ありました時にはちょっと、これについては非常に印象はものすごく出るなあという事でいろいろ質問はさせていただきました。逆に暮らしたくなるまちだと特色がほとんど無くなるという面ではですね、言葉に違和感少し感じるんですけど、そのほうが、その意味をきちんと説明に加えてほしいという事は申しあげましたので、まあ、今日出ている文章を見ているとですね、そういうところはきちんと出てきているのではないかなあという具合に思いますけど、これはもう好き嫌いの部分もあるのかなあっていう感じはしますけど、言葉としては非常にインパクトは感じましたんで、真っ先に質問は前回の調整会議ではさせていただきました。

福田会長

調整会議の時に、経緯はですね、それは投票をやったんですよ、投票をやって圧倒的にこれが多かった、という事でこれを決めさせていただいたという経緯がございます。

内田委員

意見よろしいですか。

福田会長

はい、どうぞ。

内田委員

私も調整会議に部会長としてですね出席いたしました。で、いろんな案が出たわけなんですけれども、これはある審議会のメンバーの方が考えられた内容かと思えます。それであるべくその人の思いを尊重してっていう事で、あんまり細かくは変えないでおこうという事にしましてですね、私もいろいろ、長いんじゃないかとかですね、平仮名を漢字にしたほうが良いとか、細かい事を意見として申し上げたんですけども、全体的にはこのプランになりました。で、あの「かえりたくなる」と言うのはですね、そのどう言うのかな、あの大都市でもありませんし、大きな企業が、群立してっていうこともないんですけども、福井の特色っていうとやっぱり「ほっ」とできるっていうなんかお袋の味みたいな感じのですね、まちとして必要じゃないかということですね。まあそういう意味で、いったん帰った人もですね、やっぱり福井だなあ、あるいは福井に観光に来てですね、人のやさしさとか、いろいろ自然に触れてですね、良いね、ここで住むってことは将来的に良いかもわからんねっていうような思いが出来るようなまちっていう意味で、野坂委員さんからも言われた通りですね、いろんな帰りたくなるという思いがですね、市民、市民に

膨らむようなですね、言葉になっているのかなって言うふうに思いまして、こんな結論に至ったわけです。もう1度ご検討ください。

福田会長

で、とくにその「ほっ」とするっていうのをね、意味合いを込めるって言うのを内田さんのほうから、提案されたもので、1番最後のパラグラフの中に書いてあります。

高田さん、どうぞ。

高田委員

これが誰か特定の委員さんが考えたものではなくて、多分それぞれの専門部会で多分やられたと思うんですけど、将来都市像を、それまで具体的な話をいろいろ検討したうえで最終的に将来都市像をというふうに言われて、なかなかこういうのって難しいですね、しかも専門部会でそれぞれ検討した中で、まあ皆さんされたと思いますけれど、アイデアを出してと、行政の事務局の方も皆さん出されて、その中で考えられたものなんですね。で、これは第1部会で、専門部会の中でそれぞれの委員さんがいろいろ出された中の誰か特定のものと言うよりは、そこで、誰か特定のものにならなくて、ただその場で話し合った、水とか自然とか福井のですね、だけど産業も活性化しなきゃいけないとか、あるいは人が誰でも尊重されるような誇りとかですね、そういうのもあるいは「かえりたくなるまち」っていうのもどっかに入っていて、それが皆良いのではないかというようなこともあって、実は事務局の方が3案、その皆の話し合いを含めて3案考えていただいたんですね。その中のうちの1つだったんですけど、なかなかですね、今さっきおっしゃったように将来都市像っていうのをどうやって考えていくのかというのは、なかなか難しい事だと思うんですね。いったいこれで、どんな福井のイメージを持てるのかというのは本当におっしゃる通りで、だからこういうアイデアをいろいろほかの方々が考えられたいろんな各部会を見てですね、イメージでどうかというふうに言われた時に、多分そのイメージの中で、こういう言葉が出てきたと、で、私自身はこういうのを考えるのはあまり得意ではないんですけど、まっ、そういうので、事務局の方が多分苦労なさって、その言葉を皆さんが、心引かれた言葉をですね、繋ぎ合わせて作ってくださったという経緯で多分作られてきたと思います。で、最終的にですね、調整会議で選ばれた、多くの方が選ばれたんだと思うんですね。で、考えてみるのに、先程どなたか、委員の方がおっしゃいましたけれど、いったいこれで具体的にどんな都市像を市民に示せるのかというのは、多分それは非常に難しいんですね。だからこの像をどうやって考えればいいのかっていうのはなかなか難しい。でこの吉川さんの中にもあるように、これが果たして都市ビジョンなのかどうか、活気とか自然とかかえりたくなるとか。で皆さんに伝わりやすいのをどうやって作るのか非常に重要なんですけど、正直いって非常にこれは難しいなあっていう気はいたします。どう転んでも多分なかなか難しいのかなあっていう気は、ちょっとしているんですけど、これは良いとか悪いとかいう事ではなくて、なかなか難しいなあという印象はちょっと持っております。

奥島委員

はい。

福田会長

はい、どうぞ。奥島委員。

奥島委員

はい、奥島でございます。お願いします。あの、ボキャボラリー的にですね、「かえりたくなる」というのが1番なんて言うのかな、ふわっとした市民感覚がある言葉なんですね。上のほうは役所用語ですね。「自然・活気・誇り」得意な分野です。上の言葉はね。何のことかよく分からん事を書くんですね。「人が輝く」とかね。どこのまちでもこういうのを書いてあるんです。で、「かえりたくなるまち」というのは非常に福井の特性を活かしたというかね、先程内田部会長さんおっしゃったような、この「ほっ」とするような、僕はこれを最初読んだ時に、あっ「かえりたくなる」と言うのは、高校を卒業して大学へ行かれる、学長先生もお読みになりますけれども、福井大学へも行くんですけども、県外の大学へ進学される子供たちが非常に多いんです。非常に多いんです。私も教員をしていましたから、そんなもうほとんど行きます。福井大学がなかなか難しくて入れん部分もあるんですけど、でもあのちょっと違うとこ行こうかという私立へですね、東京、大阪、名古屋方面へ出ると、そうするともう行ったきりで、もうだんだんだんだん福井には年寄りだけで住むということになりまして、若いもんは東京にいるんだとか、そういう事になるんですね。ですから、僕ぱっと見た時に、あっ、高校生が向こうへ進学した時に、また福井へ帰ってきたいっていう気持ちを表した言葉やなっているのを、福井の良さを「ほっ」とした部分を活かしながら、帰ってきてほしいなあという、そういうふうなまちにしたいなあというような事だと思って、僕の場合は「かえりたくなるまち」というのはそういうふうに理解をしております。はい。以上です。

福田会長

どうもありがとうございました。福井大学は決して難しくありませんので、ぜひ高校の先生に勧めてください。よろしくお願いします。

いかがでしょうか。いろいろ相反すると申しますか、立場の違うね、見方捉え方違うご意見が今ちょっと出ているようですけども、いかがでしょうかね。

はい、どうぞどうぞ。

吉田委員

大変恐縮なんですけど、あと部会長に任せますって言いながらケチをつけるような形になっていて大変申し訳ないと思うんですが、帰りたくするようにするためには、どうすべきか、基本目標があるんですね。で、基本的には責任があると思うんですよ。これを条件を作るためには。さっきも言ったようにIターンUターン含めて。でこの基本目標で本当に果たしてそれでいいのかっていうようなことを考えるとなかなか厳しい部分があって、さっきも言ったように、例えば福井に住みたいんだけど、坂井町に住まざるを得ない、税金が高い土地が高いとか就職が無いとか、そういう事がきしっと責任持った対応としてこの基本目標の中できしっとね、実施できるような形になるならば、それでもいいのかなあと思うんですが、そこらへんどの責任、まあ基本目標とこの「かえりたくなるまち」という表現との一貫性っていうものは、どういうふうに考えておられるのか。

福田会長

えっと、だからこれは将来都市像というふうに掲げた、これはキャッチコピーみたいなものですよ。こういうふうなものを出したからには、これを実現に移していく責任があるだろうと、その責任の所在はですね、この委員会にあるのか、それを決めた委員会にあるのか、それともですね、やっぱり行政にあるのかという事が多分問われるだろうと思うんですけどね。室長どうです。これは。今の責任論の話。

事務局（吉村室長）

責任は最終的に市のほうにあるということには当然なってくると思います。

福田会長

そうですね。これ市長さんからの諮問を受けての会議ですからね。

事務局（吉村室長）

そうですね。

福田会長

諮問を受けてこの委員会が1つの結論を出せばですね、皆さんがやっぱり「住みたくない」あっ、住みたくないじゃない、「住みたい」やね、いや、本音じゃありませんこれは。「住みたくなる」それから「かえりたい」というまちになるというふうな、そういう福井市にしてほしいという強い要望があればですね、これ市長さんはじめですね、各福井市庁の中で働いていらっしゃる皆様方を含めてですね、施策的に当然これは実現に向けての努力をすべき目標になるわけですよ。そういう解釈してよろしいですね。だから今ちょっとご指摘がございましたようにですね、これは単にお題目みたいにこれを出しただけでは済まない、おっしゃることは事実だと思いますね。それにはやはり県民としての、あるいは委員の1人としての責任としてですね、こういうものに向かって市政に対してお願いをしていると、あるいは市政をウオッチしていくという責任は出てこようかと思えますね。まっいろいろあると思う、施策の中を見ても、いろいろやっぱり安全・安心よく言われる事ですが、治安面においても、それから災害時におけるいろんな取り組みの仕方にしても、やはり市としてのいろんな活動がはっきり明記されておりますので、これはやはりそういう意味での具体策はこの中にある程度盛り込まれておるといふふうに解釈しても良いのではないかと思いますね。

他にまだ時間ございます、ご意見いただく方はございませんか。

峯田委員

はい。

福田会長

はい、どうぞ。

峯田委員

はい、峯田と申します。これ将来都市像のお題目とおっしゃいましたけども、福井市としてはですね、「福井、誇りと夢の創造事業」というのをやっているんですね。そうするとやはりそういったものをもってどうしていくんだという事になると「かえりたくなるまち」っていうのだとちょっとニュアンスが違うと思うんですね。この何て言いますか、誇りと夢創造事業っていうのを今福井として展開しておりますから、やはり「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く」といった魅力ある都市づくりというかね。なんかそういうふうにしていったほうが良いんじゃないかなって。「かえりたくなる」という表現がね、どうもそことマッチングしないような、私は気がするんですけど。ちょっとそのへんがね、ちょっと自分としては最初の文言からすると、今、ふくいに掲げている誇りと夢創造事業それらを含めてやっていくとすると、今現実的にやっているわけですね。その中でこの表現からすると、最後の「かえりたくなるまち」というと「かえりたくなる」っていうところの表現がちょっとマッチングしないかなあ気がするんですけど。むしろそれよりも「魅力あるまち」っていうような感じの方が良いのかなあという、私は思うんですけど。

福田会長

まあ、いろんな意見があろうかと思えますけどね。これはやっぱり魅力あるまちだから「かえりたい」とも言えるわけで、というふうな議論も成り立つわけですよ。だからあの～これ確かに実は申し上げると調整会議の時、私自身はこの中には手を挙げなかったんですけどね。挙げなかったんですけども委員の方々、部会長の方々の圧倒的多数でこれは選ばれたという経緯はございます。まああのそう思って後になって見ますとですね、これはこれでなかなか面白い、迫力のある、インパクトのある言葉かなあと、いろんなものを含んでいるようにも見えます。だから非常にこれはなんかね、ミスリーディングするようなね、意味合いをもしこの言葉が持つとすると、谷口さんがおっしゃったようにミスリーディングするようですね、意味合いを皆さんが感じられていることになるとこれはちょっと問題かなあというふうに思いますが、これは必ずしもどうでしょうね、これはどんどん福井から人が出て行くという事を大前提にしているというふうには谷口さんちょっと深読みしすぎじゃないかなって気はするんですが、いかがですか。

谷口委員のほうは。

谷口委員

深読みしすぎるんじゃないかなって言う今意見ですけども、私自身はもう15年20年っていう流れを見ていって皆さん方が出て行く、出て行くっていう事を念頭に置きながらこれを作ってきたんでないかなって思います。出て行ってしまいうんだ、出て行ってしまいうんだっていう事を念頭に置いて、それに福井県の西川知事がやっていますふるさと納税というのが、その一端として我々も考えられると。出て行った人にも一応負担をしてほしいという事はやっておりますけれども、そういう事もいろいろ考えた結果この「かえりたくなる」というのは、出て行く事を前提の基に作っていると、こういう感じが強く受けますんで、何かもう少し良い表現の仕方があるんでないかなという事で、相当考えさせてもらってはおりますけれども、まだ良い言葉が出てきてないというのが実状です。

福田会長

ありがとうございます。

大谷委員

はい。

福田会長

はい、どうぞ。

大谷委員

はい、大谷でございます。やはり言葉というのは自分の置かれた立場でものを考えるものだという事をづくづく考えました。で、私自身はさっきの校長先生じゃありませんけども、若い人たちがどんどん県外の大学とか行きますね。その時にやはりこの「かえりたくなるまち」っていうのは、とても良い表現だと思いました。これ見た時に若さを感じたんですね。住んでいる人たちは帰りたくなるっていう言葉はありませんね。年寄りの人は住んでいるわけですから、ところがいったん県外に出た人が「あっ、帰りたいな」っていうのは、福井はこれはずっと逆に若くなるようなイメージを受けました。それで、これは非常に良い表現だと私は思っております。私自身がやはり10年間東京の方に生活をしてまして、若い時にはこんな福井なんて絶対嫌だと言って出たほうです。こんな未来もあんま

りないまち福井って言って、周りの反対を押し切って東京行って東京でいろいろ、めくるめくような時代を過ごしたわけですけども、やはり心の中では帰りたいて気持ちはいつもありましたね。というのは、やはりここに書いてあるように自然とか、人情とかいろんな事が、そして運命で帰ってきたわけですけども、帰ってきて非常に良かったと思っております。だからこの「かえりたくなるまち」っていうのは私は大賛成でございます。以上です。

福田会長

はい。他の方々いかがですか。どんどんご意見。どうぞおっしゃってください。

鹿間委員

私の意見を述べさせていただきますけれども、「かえりたくなるまち」というのは皆さんおっしゃっているように、かなりインパクトのある言葉で、それに比較して、「自然・活気・誇りにみちた 人が輝くまち」とは使い古されたあまりインパクトの無い言葉だな。で、良くも悪くも「かえりたくなるまち」というのはインパクトがあって、私としては「かえりたくなるまち」で良いんじゃないかなと。で、いっそのこと「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く」は返って長すぎますから、いっそのこと切って「かえりたくなるまち ふくい」ぐらいのシンプルにしたほうがですね、非常にインパクトのあるキャッチフレーズになるんじゃないかなと個人的には思ってますけど。

福田会長

はい。ありがとうございます。貴重かつ大胆な意見で、ありがとうございます。

そういう意見もあろうかと思えます。いかがでしょうか。今のご意見も踏まえた上で、いかがでしょうか。いかがですか。まだご意見たまわってない方、どうぞ。せっかくお忙しい時いらしたんですから、何か一言ぐらい全部言ってくださいな。どうぞ。何かご意見お持ちだと思うんで。ご遠慮なく。指名させていただいてよろしいですか。上野さんいかがですか。

上野委員

はい。上野と言います。ありがとうございます。田原町デザイン会議で街づくりの会議をやっているんですけども、ここに出てきている「かえりたくなるまち」っていうのは、私たちの団体の1番のモットーになっております。地域で同じ事をやっておりますので、それを福井市に膨らんだという形で非常に馴染みのある言葉でして、私はとてもしっくりきています。で、女性は特にそうかもしれないなあって思ったんですけども、活字の「自然・活気・誇り」があまり心に響いてこない。使い古されたって先程もおっしゃっていただいたんですけど、あまりピンとこない。けれども「かえりたくなるまち」って言われると心に響くものがあるんじゃないかなって思ひまして、ほっとするような平仮名の「かえりたくなるまち」っていうのはとてもインパクトがあって、私は好きです。

福田会長

ありがとうございます。

まあこれは下の方がインパクトがあるからね、前の方がちょっと言い古されたやつでも軽いね、のりで良いんじゃないですかね。全部重かったらもうね嫌気さしてしまいますよね。ある程度これは食前酒みたいなものでね、あって、次にメインディッシュが出てくるといように考えればすな、まあそう忌み嫌う事も無いんじゃないかなと。

明瀬さん。

明瀬委員

明瀬と申します。「かえりたくなるまち」って言うのは県外とかに出た人に対する目線で、県外の大学に行っている友達も福井には帰ってきたいって言うてはいるので、「かえりたくなるまち」は、私はすごく良いとは思っているんです。

福田会長

はい、ありがとうございます。

宮田さん。

宮田委員

はい、宮田と申します。そうですね。「かえりたくなるまち」キャッチコピーとしては良いかなと思います。それと吉川さんのご意見の話なんですけれども、この中に非常に重要な事が書かれておまして、「持続可能な都市づくりへの大転換」この言葉はこれからの都市づくりにとって、すごく重要な事ではないかなって思っております。これを将来都市像に入れるかどうかというのはまたあれなんですけれども、この総合計画の中の23ページに出てくる「循環型社会の形成を目指す」とか、この一言だけでは弱いのではないかなって思いました。

福田会長

はいありがとう。あのね、宮田さん「持続可能な都市」というのはどういう意味ですか。実のどこ言いますと、持続可能なエネルギーっていうのはこれは分かるんです。というのは、石油資源、地下資源ですね、いわゆる資源っていうのは数十年ですよ。ウランにしてもこれは40年位と言われている。だからいわゆる高速増殖炉を使わないようなものでいうとウランでさえもですね、枯渇してしまう恐れがあると。だから何とかそれを持続してエネルギーを再生しながらやっていく社会、エネルギーの開発が必要であるから太陽光を利用したりね、そういうふうな効率の良い、持続可能なエネルギーが必要であるという事はわかるんです。持続可能な都市というのは何を指すんですか。ちょっと僕もイメージが沸かないんでね、持続可能な都市というのは何をさすのかなあと、僕もこれを見ながらさっきから考えているんですけれども、言葉としては持続可能っていうのはね、サステイナブルという言葉でも良く使われるんですね。いろんなところで、猫も杓子もサステイナブルですわ。それで、安全・安心というものが良く使われる。けどもふっと振り返ったときにね、いったい何を指してるのかなあというのが、僕自身がよく掴めないんですよ。だからはっきりイメージとしてお持ちならちょっと教えてもらいたいというふうに思うんですが、宮田さんいかがですか。

人口は減らないで例えばずっと永続的にね、繁栄を続けていくという意味なのでしょうか。イメージがちょっと沸かないんでね。持続可能な都市というのがどういう事なのかというのが、何かお分かりになる方居られますか。これなかなか解釈が難しいかもしれませんねえ。しかしながら、吉川さんこれ出していただいた内容は幾つかあって、さっきのロングスパンのね、長い将来、50年後の福井を考えるととなかなか今難しいと思いますけどね。しかしまあ、交通機関そのものの発達もどうなっているかちょっと分からないですものねえ。

宮田委員

例えば車を減らして電車で生活できるような都市であるとか、そのあとは食糧危機に備えて、もっと自給できるようなものであるとか、一言で言うのはちょっと難しいですけれ

ども。

福田会長

確かに食料問題はそうかもしれません。食料の補給、いずれ地球の人口がですね、今の2倍以上に増えてきたら、食糧問題っていうのはいやがおうでも起こってきますし、水問題でもそうですよね。そういう時に福井は食料にも困らない、水にも困らない、そういう都市としてずっと50年間栄え続けるためにはどうしたら良いかというなら、なるほど分かります。それは、それは1つの視点かもしれません。ありがとうございました。

他に何かないでしょうか。そういう今サステイナブルな都市という事、持続可能な都市というような概念がここに入るのか入らないのか。という事に対する宮田さんからの意見があったというふうに思います。そういう事を含めていかがでしょうか。

堀内さんいかがですか。

堀内委員

当初拝見した時にですね、この文章が長いなと思いました。だけど、これに変わるべき言葉がなかなか浮かばない。持続可能という言葉はやはり都市として存続するための条件が他市に比べて優位でなければ存続しないということも考慮していかなければならなきゃいけないかと。これから近畿圏とか何とかという話も浮かび上がっておりますが、福井県はそういう事では参加しないという事ですけども、将来どうなるか分かりませんね。5年10年スパンが長くなれば長くなるほど、変化は大きいと思いますので、やはり大学のそういう手当て、補助金ですか、そういうものが削られるっていう問題も大きいでしょうし、やはり地域としてどんどんとそういう事に対する地域開発が地域として生き残れるものが生み出されていかなければならない。そこには若い人も自然と言わなくても帰ってくる、そういうものが、こう温泉が噴出するような、そういう魅力あるものを作り上げていかなければならないのかなと思います。

福田会長

はい、ありがとうございます。

えっと今手上げられた方。

桑原委員

はい。

福田会長

はい、どうぞ。

桑原委員

私の研究がちょうどそうなんですけれども、公共施設の維持補修とか、ずっとそういうのをやってきておりますので、そういう形でもメンテナンスをし続けることっていうのが、自分の中では持続可能なサステイナブルな都市づくりっていうふうに考えているんです。で、スクラップアンドビルドでどんどん新しいものを作るっていうのではなくて、吉川委員も書かれておられますようにハードをどんどん整備するのではなくって、ソフトの面っていう事でメンテナンスをしながら、今あるものをずっと使い続けるという事がこれからの都市としては必要になってくるのかなっていうふうに思っております。で、それが結局ひいては「かえりたくなるまち」に繋がるのかなと。で、まっ、3年後5年後、後に戻ってきたときには私こちらの出身ではないんですけれども、もし一旦ここを離れたとしてもまた戻ってきたくなくなるかなっていう時に、同じものが同じ場所に同じところにそのままあ

るっていうのは、やっぱり故郷じゃないけどと帰りたくなるかなっていうふうになるかなと思いますので、新しいものをどんどん作るよりもなくて、今あるものを使い続けるっていうのが「かえりたくなる」っていう言葉の中に含まれている気がいたします。で、「かえりたくなる」っていうのはやっぱり原点なのかなっていうことなので、まあお住まいの方にしてみれば原点イコール自分のアイデンティティでもあると思いますし、それが福井のアイデンティティにもなるわけですし、いろんなこれだけいろんな事件が起こったりたとしても、やっぱりほっと原点に戻れる、戻れる原点がある事、ある人っていうのが1番強いんだと思いますので、そういう意味でもこの平仮名の「かえりたくなる」っていうのが良いかなっていうふうに思います。

福田会長

はい、ありがとうございました。

さっきのサステイナブルな吉川委員言われたようなですね、まちに対するいろんな解釈をさっき宮田さんと今いただきました。それで、確かにそういう、これからのその福井はですね、どっちの方向に向かっていくのか、そのここに吉川さん書いておられるような、ハードからソフトというふうな事を本当に今おっしゃっているみたいですね、行けるのかどうかね、やっぱりその、確かにヨーロッパみたいなですね、石作りの建物とか、そういうものですとアンネ・フランクが住んでおったオランダにある300年前のやつ、傾きながら保たれていますよね。だから確かにあれですけども、日本の場合古い合掌造り、木造は別にしまして普通の民家はですね、300年も持ちませんよね。だからそういう意味ではですね、やっぱり常に保守点検をしながら、これをやっぱり守っていく必要があるんで、新しいものに変えざるを得ない部分もあるかもしれません。だから常に同じ状態の市がですね、カジカレている事がサステイナブルかどうかという事がちょっとやっぱり私はわかんない点があるのではないかと思います、まあ何れにせよ、しかし、そういう故郷を感じさせられるような、故郷を感じさせるような都市のあり方、いう事が大切ではないかというご意見かと思えます。

内田委員

いいですか。

福田会長

はい、どうぞ。

内田委員

関連で、2点申し上げます。まず今いろいろ議論なっているですね、「持続可能なまちづくり」っていう事で、それは私ちょっと先程意見申し上げました10ページの下2行のですね、20年30年後のですね、目指すところがですね、その先もありますけれども、やっぱり「持続可能なまちづくり」という事になってくると思えますので、その持続可能なまちの姿の具体的な事例をですね、二三しながらですね、それが将来を見据えながらという事になりますので、そういう書き方にしてはいかがかなっていうふうに思います。そうすれば、吉川委員さんのところも入ってくるのかなっていうふうに思います。

それからここで誰もが住んでみたいと思えるまちを目指しとありますけれども、1番下にですね、ここをですね、11ページのそのフレーズの「かえりたくなるまち」にしちゃいけないのかな、先に使っちゃいけないのかなっていう気はします。やっぱ使っちゃいけないんでしょうか。

福田会長

もう1回言ってください。

内田委員

住んでみたいと思えるまちを目指しとありますけれども、ここを「かえりたくなるまちを目指し」というふうにしちゃいけないのかなって。その、まだ登場していない言葉を使っちゃいけないのかなって思いますけれども、やっぱりそういう言葉にしちゃっても良いのかなっていうふうに思います。

それからあと、この10ページを読んだ時にですね、これは段落の上に上1つ下1つに分かれているんですね。下の段落の3つ目2行目から「市民の労働環境を整備する施策や高齢化社会に対する施策を実施」ってありますけれども、これはあの、パブリックコメントを取るとですね、この2つを例示していますので、じゃ高齢化じゃない子どもの問題どうなんだとかですね、教育はどうなんだって事になりますので、あまり個別具体的な整備する題目を書いちゃうと良くないのかなって、基本的な考え方ですから、ここもうちょっと総論的な書き方にした方が良いと思います。以上です。

福田会長

はい。どうもありがとうございます。非常に貴重な意見だと思いますが、一応これは事務局のほう参考にしてください。

事務局（吉村室長）

わかりました。

福田会長

確かにそれはおっしゃる通りかもしれませんね。ちょっとそれは必要かもしれませんね。ちょっと工夫が必要かもしれません。

そちらちょっとお名前が見えないんですが、二林さんですか。どうぞ。

二林委員

二林でございます。「かえりたくなるまち」というのはちょっと違和感があるわけですが、なぜかと言いますと、帰りたくなるっていうのは、出て行った人がまた戻るというような言葉ではないかと思うんですね。福井を増やすためには県外の人が福井に住んでみたいという言葉ではね、ないんじゃないかなって言葉ではないんじゃないかなって私は思うんですけどね。帰りたくなるっていうのは出て行った人がまた戻るという事ですよ。県外の人が出て行った人が戻ってほしいという事か、市内に住んでいる人が、市内の人じゃなくって、ぜんぜんよその県の人があんな良い街の福井に住んでみたいと、言う言葉とはちょっと違うんでないかなと思うんですね。帰りたいてってことになれば、結局は出て行った人が、もういっぺん福井が良いなって事で帰って来る事だと思うんですよ。そして今全然関係の無い人が、あんな素晴らしい福井ならいっぺん住みたいなという言葉と相反するんじゃないかなというような気はするんですけど。

福田会長

はい、ありがとうございます。

その次、鹿間さんですか。

鹿間委員

私先程。

福田会長

あっ、そうですか。
榊原さん。

榊原委員

榊原と申します。僕の意見はこの「かえりたくなるまち」というのは賛成です。先程もおっしゃったんですけれども、大学進学もしくは就職関係で県外に行かれて帰りたいと思う人は相当多いと思います。で、現状的に今出て行く人が多い中で、この総合計画で5年後または20年後を目指してやっていくのであれば、この「かえりたくなるまち」をつかっていく、またはそう思えるように政策を施策を打っていくというのは重要なことだと思うので、この文章は使っていただきたいなあと思います。

福田会長

ありがとうございました。
坂本さん。

坂本委員

坂本と申します。よろしくお願ひします。将来都市像の「かえりたくなるまち ふくい」っていう事で相当議論がなされていたのですけれども、個人的にはこの「かえりたくなるまち ふくい」っていうのは、インパクトがあつて、その分その様々な見方というのはあると思うんですけれども、すごくその将来都市像ということでも言葉と考えた時にはすごく良いのかなとは思ひます。「自然・活気・誇りにみちた 人が輝くまち ふくい」っていうふうに仮にした場合は、ちょっと個人的にはあまりその力が無いというか、将来都市像っていうのにまあ肩書きがちょっと負けてしまうような気がしまして、「かえりたくなるまち ふくい」っていうのがそれだけ力があつて、まあ将来都市像の将来性があるものかなと思ひますし、しっかりと今後5年間というものを見据えた時には、それだけ強い力のある言葉の方が5年後次の総合計画というものを考えた時にしっかりと反省点ですとか、次に向けての進め方というものがしっかりと出てくるものではないかなというふうに思ひました。

福田会長

はい、ありがとうございました。
刀禰さん。

刀禰委員

はい。刀禰と申します。最初にこの将来都市像を見て思つたのはやはり、言葉として長いかなというふうに思ひました。それからその「人が輝く」までと「かえりたくなるまち」からの表現が違いすぎて、なんだかちょっとという気は正直いたしました。でもいろいろ考えてもみたのですが、基本目標4つをまとめて表現する言葉がなかなか無いということで、第1部会でも決まらなかったっていうこともあつて、だから正直難しいなとは思ひます。

それで「かえりたくなるまち」っていう表現なんですけれども、これは3つ立場として考えていて、1つは私たちのような若い世代が県外から帰って、出た人が帰るっていう意味もあつて、2つ目に福井市に住んでいる人が自分の家とか地域に帰りたいと思えるまちづくりを目指すという事と、3つ目に県外の人でも福井市のような故郷、このようなところに気持ちとして帰りたいというふうに、故郷に帰りたいというふうに思えるまちづくりを

目指すという意味が込められているのではないかというふうに考えていて、人それぞれいろいろな捉え方があるんですけども、私はこの「かえりたくなるまち」という表現は良いというふうに考えています。

福田会長

ありがとうございました。

島崎さん。

島崎委員

はい。島崎と申します。僕もこの「かえりたくなるまち」というのは賛成な方でして、「かえりたくなるまち」という表現はですね、僕の、自分の認識としては「かえりたくなるまち」、福井をまったく知らない人やったら福井に住もうとかは何にも思わないと思うんですけど、福井に少しでも立ち寄ったり福井にちょっとでも関わってくれた人っていうのはもう1回ここに来ていただければ、そこからはやっぱりもう1回福井に行きたいなって、もう1度行きたいっていうこの意識が「かえりたくなる」っていう認識で「かえりたくなるまち」というのは良い言葉だなあと感じてました。

ただ将来都市像全体で見た時に、始めこの将来都市像に決まりましたというこれを見た時に、これを決めていただいた委員さん方々には申し訳ないんですけど、やはり長いと思ったし、ちょっと詰め込みすぎなんじゃないかなあという認識が第一印象でした。なので、やはりなんかこの詰め込みすぎて逆に何をこう将来には都市像として作っていききたいのかが上手く伝わってこなかったように感じます。以上です。

福田会長

まっ、これで一応今日ご出席の委員の皆様方全員のご意見はですね、少なくとも1度はお聞きしたという事ですが、しかしまあこれだけ皆さんの意見が分かれているんな立場の意見が出るという事は逆に言ったらインパクトがあると、いうふうに理解すべきかもしれませぬね。話題性があるキャッチフレーズであると。良いにつけ悪しきにつけにそういう意味があると、それから、前のほうの頭がちょっと重すぎるという意見がございました。極端な意見として前全部省いたらどうやという意見もございましたけれどもですね、まあ全体としては今お聞きのように今日ご出席の委員の皆様は、まあまあ意見はあるけどもこれでだいたい良いんじゃないかというふうなご意見が多数であったのではないかというふうに勝手に解釈させていただいてよろしいでしょうか。まあしかしもう1度事務局のほうでもですね、ちょっとお考えいただいて、今日の出た意見、いろんな意見出たと思うんですけど。これはまだ変える余地はあるんですね。もちろん。

事務局（吉村室長）

もちろんまだ変える余地は当然ございますので。

福田会長

なんか、これに変え、もう1回まだあるわけですが、これに引き換えてですね、直ぐに良い意見が出なくっても、例えば頭をですね、もうちょっと軽くするとかですね。

鹿間委員

はいあの意見を申し上げる。

福田会長

はいどうぞ。

鹿間委員

鹿間と申します。「かえりたくなるまち」っていうのは非常に漠然とした言葉で具体的な施策と直接は対応の付けようがないと私は思ってます。「自然・活気・誇りにみちた 人が輝くまち」はもうちょっとグレードダウンして課題に結びつく言葉となっています。レベルが違っているんじゃないかと。そういう意味でやっぱり「かえりたくなるまち ふくい」をメインタイトルにして、そのサブタイトルの何か、サブフレーズの「自然・活気・誇りにみちた 人が輝くまち」ですね、そういった2段階にするのはどうかなと思ってるんですけども。

福田会長

帽子ではなくって、座布団にするという事ですな。そういう意見も今、鹿間委員のほうからいただきました。どうでしょ。まだ言い足りない。こういう意見の方が、絶対的にこうだとおっしゃる方ございましたら、どうぞ遠慮なくおっしゃってください。まだ、これはもちろん、もう1回これは全体会議あるのかな。

事務局（吉村室長）

一応ここである程度これで固めると言ったら言い方が悪いんですけども、一応こういった形でまとまったということになりましたら、1度審議会としての答申案を市民の皆さんの意見を1度集めまして、それらを踏まえて、もう1度調整会議、それからこの全体会議。

福田会長

わかりました。

事務局（吉村室長）

する予定です。なかなか紛糾してまとまらないようでしたら、更に回数を増やすとかそんなことも当然考えてございますので、十分にここのは非常にメインなところですので、十分にご議論をお願いしたいと思います。

福田会長

あんまり回数を増やされても困るんだが。

事務局（吉村室長）

そうですか。

福田会長

いかがでしょう。

峯田委員

はい。もう1回。

福田会長

はい、どうぞ。

峯田委員

いいですか。私も10月の調整会議にちょっと会議がありまして出れませんでした。実はですね、私住んでみたい、いや、「かえりたくなるまち」というのはですね、私も30年間の勤務生活の中で半分学生時代から含めると20年近く東京に居ました。で、「か

えりたくなるまち」というのは、心の根底にあります。もちろん誰でも帰りたいという気持ちがあるんですね。ところが状況がそれを許さない。環境の問題だったり、就職それから何て言いますかね、住居の関係とかいろんな問題で、どうしても帰れないという状況があるかと思えます。それで先程の方おっしゃいました。サブタイトルで持っていったらどうかと。要するに最初のこれ頭が重すぎます。確かにそうです。で、私は「住んでみたい、かえりたくなるまちづくり」これ一本で簡単にしてしまっただけですね、あとは補足的に「自然・活気・誇りにみちた 福井市」というなんか入れたらいいんじゃないかなっていうふうに思いますが、で、簡単に「住んでみたい、かえりたくなるまち」先程の方はおっしゃいました「かえりたくなるまち」というのは元居った方が帰るためのまちづくりでしょう。やはり福井県外のいろんな人たちが福井って良いところだなあと、何か生活満足度も日本一だと、どうしてもそういう所行ってみたいなという、まちづくりも必要じゃないかなというふうに思えます。それで、そのまとめとしましては非常に難しいんですけど、もっと確かに簡単なフレーズにして、あとサブタイトルをなんか工夫したらどうかかなあというふうに思えます。

福田会長

いかがでしょう。他に。

二林委員

すみません。

福田会長

はい、どうぞ。

二林委員

ちょっと確認っていうんですかね、ちょっとお聞きしたいんですけども、この表題が仕上がりますと、この5年間の、この表題がですね、第五次では「交・響・楽・彩」という表題だったわけですね。そうするとそれはもう消えて、第六次になりますと、これに向かって計画を進めますという事でしょうか。で、第七次となれば、この5年間の間の表題って事ですか。

はい、わかりました。

福田会長

他にご意見ございませんか。

二林委員

表題っていうのは、福井はこういう事で向かっていますよっていう、その事象を挙げたほうが良いんでないですか。5年間はこのような形で向かっていきますという事なんで。福井の目標は将来はこういう目標に向かっていくんだという表題をぽっと挙げた方が良いような気はするんですけどもね。5年間だけこういう表題にして向かっていきますと。これに向かって計画を進めますと、というようなことでしょうか。そうなりますと、そのへんがどうかと思ひまして、ちょっとお聞きしたかったんですけど。

福田会長

さっきから室長も何回もおっしゃってますようにですね、これやっぱり総合計画の5年のね、向こう5年の計画をやると、いうところにあつての基本的な考え方と将来都市像をまとめたものですからね、当然これはいわゆる5年間の中期計画みたいなもんですね。

そういう形になろうかと思えます。だからそれに対しておそらくもうちょっと、上のものをやるともっとロングスパンの20年30年のやつをですね、基本的な考え方のところ、先程内田さんほうから話があったように10ページの下に付け加えることになろうかと思えますけどね。

上野さん。

上野委員

すみません、ちょっとそこから将来都市像から外れさせていただきます。3番の基本的考え方の文面なんですけれども、1番最初福井市はから始まっていますが、その2行目からですね、人口構成などからの推計では将来的な人口減少、その後諸々は日本全国的な問題であって福井市だけではありません。若者が減っている、人口の波ですね、出生率はどんどん下がっているということは全国的な事なので若者取り合い合戦がたぶん各所で行われているという事になると思えます。で、福井市だけではないということをおそらくこの文章では表現しきれいていないのではないかなあと思いました。

福田会長

まあこれ、全国的な傾向なんでね、福井市だけの問題じゃないじゃないかというご意見ですが、室長何か意見ありますか。

事務局（吉村室長）

前の序章の所で、一応2ページのところの頭の所で、国全体がそういうところにあるという前提の基で、福井市においてもというような考え方で10番のところは、福井市の総合計画に当たっての考え方という事ですので、全体としては当然日本全体がそうであるというふうな事は踏まえたうえでの福井市の立場ということで、ご理解いただければと思います。

福田会長

はい、どうぞ。

大谷委員

市役所の人をお願いしたいんですけども、今、将来都市像の中にですね、私あのキーワードが入っていると思えます。11ページですけども、「訪れる人々にとっても安らぎと」って言うフレーズと最後に「「ほっ」とする」という意味を込めて」とありまね。この都市像の中に住民としての福井市という捉えかたと、もう1つはこういう世の中ですから福井の観光都市としてのウェイトはかなり大きくなってきていると思っております。それで私自身は本当に外国の人がここの福井へ来ると「ほっ」とします。といつも言われるんですね。そういう事も含めて訪れる人々も含めた都市像であってほしいなと思えますので、その事だけよろしく願いいたします。

福田会長

というのは、今ここで説明で書いてあるよろしいという事ですか。

大谷委員

はい、そういう事ですね。それを忘れないでほしい。

福田会長

という事ですね。

奥島委員

お願いします。

福田会長

はい、どうぞ。

奥島委員

都市像のフレーズですけれども、これ自然から人が輝くまでは非常にレベルの高い言葉でありまして、「かえりたくなるまち」っていうのは、すごい庶民感覚の言葉です。だからミスマッチしているようですね。ミスマッチをしているんで「かえりたくなるまち」っていうのが非常にインパクトがあるように思うんです。ですから、やや長いような気もするんですが、このどこにでもあるような言葉を羅列しておいて、変わった言葉を入れると、いう非常なテクニックと言いますかね、そこらあたり大変上手く出来ていると僕は感心しているんですけども。はい。

福田会長

はい。そういうご意見であります。

まだちょっと時間ございます。どうぞご意見いただきたいと思いますがいかがですか。どうぞ。

田村委員

田村ですが。この文言なんですけど、これあの1回の時に、ちょっと説明いただいたのは、自然にみちたふくい、活気にみちたふくい、誇りにみちたふくい、人が輝くふくい、それをかえりたくなるまち ふくい で表したような言葉なので、このみちたふくいって言うのを全部自然・活気・誇りにみちた、だから人が輝く、だからかえりたくなるまちふきいと、こういう具合にちょっと説明を受けたもので、ああ、なかなか良い言葉だなあと思いましたので、今のご意見のように上がレベルが高くて、下は気になる言葉がそのまま、皆さんがもう気になる、それがまた良いんでないんかなあという意見でございますので。私の意見はそういう事でございます。よろしくお願いします。

福田会長

はい、どうもありがとうございました。

だいたい意見が出つくしましたかな。まっ、先程大谷さんが言っていた、いろんな解釈があるもんだという。確かに人それぞれで、立場によってですね、やっぱり受け止め方・感じ方が、それぞれ違ったものがお持ちになっていると、いう事はこれ、事実だと思うんですね。しかしながらですね、これは絶対いけないと、これはもう親の仇みたいに絶対いけないというような意見は無かったように思うんでね、ある程度の問題なしとはしないけれども、どうでしょ。これはやっぱり、かなりの方々が積極的に良いという意見から、まあまあ良いんでないんかなあという意見を含めましてですね、多かったように感じられます。まだしかしあと2回のチャンスがございますので、それまでにですね、一応あえてですね、どうしてもというふうな意見がおありになりましたら、またちょっとお出しただくと。あるいは調整会議の部会長のほうまでお寄せいただくと。あるいは私のところでも結構でございますし、事務方でも結構でございます。意見をもしあれだったらお寄せいただきたいと思いますが、とりあえずですね、今日の一応の会議では皆様のご意見をあまねくお聞きした結果、パスタブルである、一応許容できるだろうという範囲内で落ち着かせて、ソフトランディングさせていただきたいというふうに思っておるんですが、よろしゅ

うございますでしょうか。変わることもありうるという条件付でちょっとソフトランディングさせていただきたいというふうに思います。

他に事務局の方から、何かこういうところを議論してほしいというところございますか。

事務局（吉村室長）

「かえりたくなるまち」のところはいろいろ今ご議論いただいたわけなんですけれども、ここのところでね、主題・副題というお話もありましたけれども、こういう形でまとめて出すのか、それとも主題として簡単なものを、で副題でちょっと説明する。そういった意見も出されてましたけれども、これどちらの方がよろしいでしょう。

福田会長

今、一応は最後申し上げたように、いろんなご意見ございました。けれども一応このままでですね、上のほうはどちらかと言うとフォーマルな、ちょっと固い表現で、あるいは悪い言葉でいうとありふれた、そういう意味があるけれども、それと非常に個性的な後半がですね、上手くミスマッチのマッチングをしていると、いう事ですね、これは返って面白いんじゃないかという意見もございました。そういう意味で、これはこのままの形で一応案は委員会としてまとめさせていただいたと、いうふうに私は理解しております。

事務局（吉村室長）

はい、わかりました。そういう形で後は他の文章のところの文言ですとか、そういったことについては、ご意見をふまえて修正したものをまた委員の皆様へ送付をさせていただきます。その上で、送った文章についてまたご意見があれば、こちらに返していただきたいと思っておりますけれども、その上で、12月に入りましてから市民の皆さんの意見を募集をさせていただきたいと思っております。

で、今後の予定ですけれども、本日の次第書を1枚おめくりいただきますと、審議会のスケジュール案という事で、記載をさせていただきます。本日11月8日答申案をとりまとめいただきまして、12月中市民の意見を募集を行います。そして1月の中旬、それらをふまえて正・副部会長の皆様による第4回の調整会議、その後1月の下旬に第3回の全体会議、ここで答申案を決定させていただきたいというふうに思っております。

その後ですけれども、2月の中旬上手くまとまりましたら、このここで市長に対して会長・副会長から答申を行っていただく、それから23年度4月以降ですけれども、6月の下旬に総合計画を決定して7月以降は実施計画の作成作業に入ると。で、24年度から六次計画が始まりますので、この実施計画も23年度中にはまとめて発表していくと、いうような形になって参りますので、今後ともご協力をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

福田会長

はい、ありがとうございます。

なおですね、この吉川さんの文章にあります23ページの件に関しましてはですね、ちょっと事務局のほうで一考してください。

事務局（吉村室長）

はい、わかりました。

福田会長

今日ではですね、一応全員の出席された委員の方々から貴重なご意見をいただきました。

なかなか意見が必ずしもですね、全員一致で一致したとは考えておりません。こういうものはいろんなやっぱりベクトルがあつて然るべきもんだらうというふうに思いまして、まあしかしながらこれだけ、熱心に討議していただいてですね、承知の上で、良いも悪いも承知の上です、これはやっぱり委員会として一応の採択をしていただいたというふうに考えたいと思います。で、あの今後ともですね、先程申し上げたように、まだこれがどうしても福井の市の将来のために、もっとこの方が絶対良いんじゃないかと思えるような提案がございましたらですね、ぜひ出していただきたいというふうに思います。

これで一応ご意見なければ、今日の会議は閉じさせていただきたいと思いますが、司会を事務局の方にバトンタッチしたいと思います。よろしくお願いします。

【(2) 今後の日程について】

司 会

ご審議ありがとうございました。福田会長さん進行のほうお疲れ様でございました。ありがとうございました。

先程うちの室長のほうから申し上げましたとおり、12月のパブリックコメント市民の皆様のお聞きしました後、年明け1月に調整会議ならびに全体会議をまた実施したいと思います。またご連絡ご通知を差し上げますので、よろしくお願いをいたします。

4. 閉会

司 会

これで第2回の審議会を終了しますが、事務連絡なんですが、本日お車でお越しの方につきましては、下の事務所のほうに駐車券をお出しいただきますと駐車料金無料になりますので、必ずそのお手続きをされてからお帰りいただきますようお願いをいたします。

本日はありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰りくださいませ。

ありがとうございました。

以上